

騒音・事故…地元「白紙撤回」

中国念頭 沖縄・うるまに陸自訓練場計画



防衛省が防衛構造を充実化し、陸上自衛隊の新たな訓練場を整備する計画を進めてくる。中国を愈頭に躍った防衛力の「南西シフト」の一環だが、建設予定地は住民街に隣接しており、騒音や事故を懸念する地元自治会が計画の白紙撤回を求めている。防衛省は11日、住民説明会を開いた。

防衛省によると、訓練場を整備するのは約20ヘクタールのゴルフ場跡地。2012年度に購入し、25年度に調査設計を進め、26年度に着工する計画だ。新規予算案に取得経費を想定している。実弾射撃

防衛相は記者会見で、「周辺地域への影響を最小限に留めるよう努めること」と述べた。

石川市の15自治会でつくる協議会が、金銭一斉で反対を決議した。近くに住む伊波洋正さん(71)は「隣接な住宅街に訓練場が立地すれば生活が破壊される。米軍の騒音や事件事故だけでも耐えがたいのに、自衛隊でこれ以上基地負担が増えるのはどんでもない話だ」と懸念を求める。また、整備予定地は沖

金に対する態度などを提出するものである。西田は、元老院議員の寺田寅彦、石川信之、西郷徳蔵らの手で開設された駒田地を次々と開拓した。玉城トニーによれば、「米軍基地のものほど

訓練場にて「空挺部隊の意図を踏まえる練習をした」と述べた。成瀬は「訓練場にて「空挺部隊の意図を踏まえる練習をした」と述べた。

自治会が全会一致で反対決議

員する方針を打ち出した。これがきっかけで、防衛省は「防衛戦略上、部隊の近くに訓練場を置く意義は大きい」と話す。ただ、周辺には住民街が広がり、小中高校生が宿泊学習する「昇立町青少年の森」もある。くりの訓練に伴う騒音や操

攻撃能力（反撃能力）をもつた大抵の真輪轟ミサイルの配備も検討されている。防衛省は配備場所は未定との立場だが、新たな訓練場で関連した訓練の実施を計画するも想定されており、「有事の際には他国に攻撃される可能性がある」と心配する住民もいる。

100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0

などと騒ぎの声が上がり、おかしくて、今から住民の意見は反映されるのか？」
た。ある住民は、陸自守那国駐屯地（沖縄県守那國町）では沿岸監視部隊が配備された後で、ミサイル部隊などの配備計画が決まったことを挙げ、「今日の説明は全く信用できぬ」と批判した。
訓練場整備は22年12月の安全保障関連3文書で、那覇市を拠点とする約2千人の第15旅団を

9年、米軍ジェット機が墜落し児童ら18人が死んだ。でも懲罰を記憶する人は多い。当時小学1年だった伊波さんは「米軍の事故があるたび当時の記憶がよみがえる。同じようにが起きるのではないか」と不安視する。

また、約15⁺南東にある市内の陸自勝連分屯地には3月、地対艦ミサイル連隊が織がれる。政
府が保有を決めた敵基地

—
—
—